

2020. 7. 25

No.219

編集・発行人 樋口みな子

E-mail

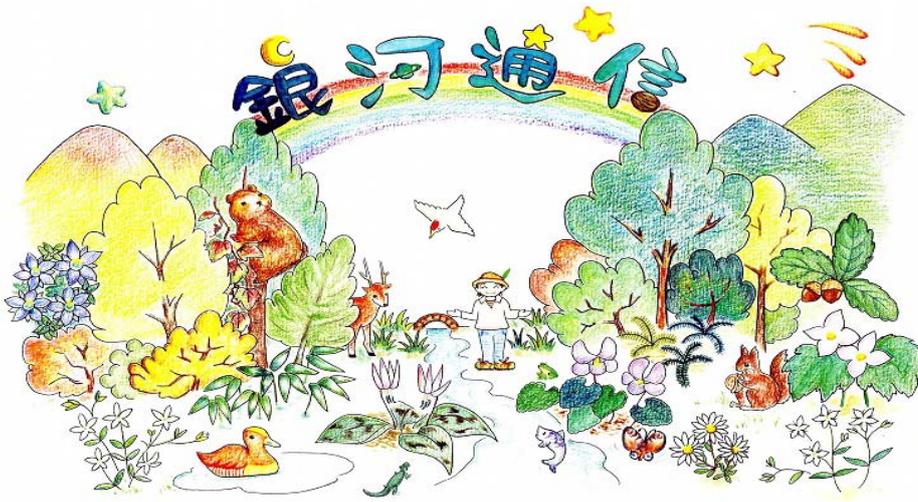
minginga@agate.plala.or.jp

URL <http://www13.plala.or.jp/minginga/>

郵便振替「銀河通信」

02740-7-56535

(郵送年間1,500円)



## 33年目の「銀河通信」がここから始まります



黒岳から石室に向かうと北鎮岳の山腹の雪渓が白鳥の形に。撮影：昨年7月末

1988年7月10日創刊の「銀河通信」が32周年になりました。200号まで来た3年前、少し休みたいなどふと思いました。でも社会は少しも良くなっていません。

札幌の選挙集会で政権を批判するヤジを飛ばしただけで警察官に排除されたことは、戦時中の言論弾圧を想起させました。北海道放送のドキュメンタリーのおかしいことはおかしいという指摘に教えられました。香港の言論の自由を奪った「香港国家安全維持法」とつながっているように思えてなりません。スローガンが禁止されても白紙の紙で抗議を続けた人たちの勇気を忘れません。

森友学園の公文書の改ざん問題は今も究明されていません。書き換えを命じられた財務省職員の赤木俊夫さんは、涙ながらに抗議しましたが従わざるを得ませんでした。その後、妻の雅子さんにだけ打ち明け自死を選びました。上司の佐川宣寿理財局長は栄転したというのですから許せません。第三者委員会による再調査を要求する「赤木さんを忘れない」キャンペーンに私も署名しました。35万筆に達しました。真相を解明してほしいと裁判が始まりました。先日、雅子さんが会見で声を絞って「公正に職務を執行していますか」「疑惑や不信を招くような行為をしていませんか」と訴えました。その姿に夫の無念を晴らさなければという決意がにじんでいました。

私は集会にもなかなか参加できないし、ささやかな

活動しかできませんが、せめて本や映画の拙い紹介を通して、読者と考えていけたらと思います。

コロナの収束の見通しが見つからないなかで、豪雨被害に遭われた熊本県をはじめとする九州各地や広島県、長野県にお住いの皆さまにはお見舞いを申し上げます。熊本では3年前に植村裁判を支える市民の会の講演があり、多くの方にお世話になりました。水俣病センター相思社に問い合わせたらお元気であることがわかりました。でも被災地では、コロナのために、他県からのボランティアを受け入れるのが難しく「何から手をつけたらいいかわからない」程だといいます。被害の甚大さに胸が痛みました。

札幌は少しコロナがおさまり、私も少人数での登山に感染対策をしながら行けるようになりました。でも東京や周辺地域の感染はまだまだ続きそうですね。イタリアのパオロ・ジョルダノさんは、著書「コロナの時代の僕ら」で「感染症の流行は考えてみることを勧めている。隔離の時間はそのよい機会だ。何を考えろって？僕たちが属しているのが人類という共同体だけではないということについてそして自分たちが、ひとつの壊れやすくも見事な生態系における、もっとも侵略的な種であることについて、だ」「僕には、どうしたらこの非人道的な資本主義を、もう少し人間に優しいシステムにできるのかも、経済システムがどうすれば変化するのかも、人間が環境とのつきあい方をどう考えるべきなのかもわからない。実のところ、自分の行動を変える自信すらない。でも、これだけは断言できる。まずは進んで考えてみなければ、そうした物事はひとつとして実現できない」と書きました。私も考える時間だけはたっぷりあります。今回のコロナ禍は持続可能な世界にするにはどうしたらいいのか？と問いかけてられていると思います。

持病を持つ家族がいて介護施設にお世話になっている93歳の母がいます。私が感染したらとその先を考えることが多くなりました。施設のスタッフは、仕事を全うするために、レジャーも控えて感染させない努力をしているのだと想像できました。感謝の気持ちでいっぱいです。ささやかな通信が、読者の心に届いたら嬉しいです。33年目の通信がここから始まります。

## 「泊原発 見えてきた廃炉への道筋」講演を聞いて

マシオン恵美香(バクレルフリー北海道代表)



6月20日(土)、小野有五さん=写真=(北大名誉教授、行動する科学者の会・北海道事務局長)の「泊原発 見えてきた廃炉への道筋」と題し、オンライン講演がありました。(主催:カトリック札幌教区「正義と平和協議会」)

講師は東電福島原発事故と泊原発

を比較しながら、「北電は将来の電力不足に備えて泊原発が必要としてきたが、2011年の東電福島原発事故から本年まで、北海道は原発を止めても電力は十分賄えることが実証された」とまず述べました。原子力規制委員会が現在審査中の泊原発はどのような観点で再調査され、何が審査のポイントとなっているかと順に説明。地震や火山活動が多い日本の国土に設置されているすべての原発に共通する施設としての危険性、原子力防災の知見から泊原発が万が一の事故に至った場合に考えられる被曝、避難、原子力の経済性、残される核のごみの始末の問題などを語り、濃い内容でした。

ここからは私の意見です。

北電は東電福島原発事故以降、2018年のブラックアウトまでは、大幅な電力不足があったわけでもないのに、3号機を本格稼働させ(定期検査以降から現在は停止したまま)、稼働によって電気料金の下方修正をすどころか2度も値上げをした。

小野さんのオンラインレクチャーでも示された通り、現在、稼働されていない泊原発の審査が今後も長引きそうであることに加え、使用済み核燃料の存在を忘れず、安全確保の手段を講じなくてはならないし、老朽化した原発3基の廃炉費用も解体にかかる安全審査基準に対応した対策を講じながら積み立てなければならないのだから、予想以上に費用が膨らむことが推察できる。

7月19日の北海道新聞「北電 原発賠償500億円増」という記事では、賠償費用が予想以上にかかりすぎ、北電どころか、原発を所持しない新電力にも送電料に東電福島事故の賠償金を課金し、負担させるとある。これでは、どの電力会社と契約したとしても電力消費者が原子力と完全に手を切ることはできない。北海道をはじめ、全国の電力消費者が理不尽に東電福島事故分の対策費を負担させられるのに、発生責任のある東京電力は本年度も株主総会で増収を報告していることにも納得できない。国策として原子力を推進してきたためとして国全体で費用を負担する法律と課金システムを作り、企業の責任を減免するのはおかしい。東京の不始末を北海道の電気料金に上乗せるなんて絶対にフェアじゃない。

一方、北電社長は、本年度株主総会後の記者会見で、泊原発1号炉を含め、設置から40年を過ぎても最大20年を追加で稼働延長したいという考えに言及した。稼働していなくても放射性疲労による機器の老朽化が心配される上、稼働すれば余剰電力は卸電力に

プールされ、北海道の電力消費者全員が泊原発ではなく、東電の事故補償分が、電気料金に有無を言わず加算される。電源の自由化で電力料金を支払う窓口を選べるようにはなったが、悪法によって電力を消費すると原子力にかかる費用の負担がもれなく課せられるのであり、北電を含むどの電力会社と契約しても同じということになる。

原子力事業は国策ではあるものの、「一私企業の発電事業」にすぎない。自社の後始末は自社の責任で全うすべきである。北電は少なくとも東電の後始末よりも泊原発の廃炉準備に優先して資金を投じるべきだ。



## ヤジと民主主義 ~ 小さな自由が排除された先に

昨年7月の参院選で安倍晋三首相が街頭演説した札幌。ヤジを飛ばした男性は多数の警察官に強制的

に排除されました。それから丁度1年の7月15日にドキュメンタリーを制作した北海道放送(HBC)のプロデューサーとディレクターの講演を聞きました。主催したのは記者や元記者、フリーランスなどが参加する日本ジャーナリスト会議(JCJ)北海道支部。私はJCJの通信読者です。参加者は約40人。

この番組は私も何度も全国の読者にお知らせしました。本州に住む読者はYouTubeで見ることができます。

番組は排除された人たちの思い。元警察幹部の原田宏二さんや、公職選挙法に詳しい方のインタビューなどで「ヤジ排除」は違法であることを検証しました。このドキュメンタリーは優れた放送番組を讃えるギャラクシー賞の年間優秀賞を受けました。

プロデューサーの山崎裕侍さんは、HBCでは、昨年の演説現場に十分な数のカメラを配置しておらず、排除の瞬間を撮影することができなかったこと、首相演説の場に立ち会っていたにもかかわらず排除行為に気づけなかったことから「黙認したと思われても仕方がない」との思いを抱いたことも明かしました。取材・調査で詳細な事実を知り、権力の暴走に危機感を覚えてドキュメンタリー制作に至ったと語りました。

長沢佑さんはまだ20代のディレクター。小さなことを見逃したら、やがて大きくなって取り返しがつかなくなる。メディアは権力に付度せず、おかしいと思ったことはおかしいと言い、権力を監視する役割を果たして行きたいと語りました。

当事者に話を聞くこともしないで、検察は刑事告訴された警察官を不起訴にし、道警はヤジを排除したのは適正だったと結論付けました。ドキュメンタリーは「誰かの権利が奪われることに無関心な社会は、権力の暴走につながる。ヤジすらも言えなくなる社会になるのか、小さな自由が排除された先に待つものとは?今民主主義のありようが問われています」と訴えます。

## 豊浦町・岩屋観音～秘境駅『小幌』 トレッキング



コロナ禍で山歩きは久しぶり。6月3日、豊浦町の秘境、岩屋観音と無人駅小幌駅をめぐるトレッキングに参

トチノキの大きな祠の前で 撮影・藤木俊三さん

加しました。私は野幌駅からJRで白石駅に出て、車に同乗させていただき車6台に乗りあわせて道南の豊浦の道の駅に集合。総勢16人です。

森が深く、ひとりならクマが怖いです。やがて砂防のある小沢と出会い、これより沢沿いに踏み跡を下りました。ちょっと急で、滑るので注意が必要でした。幹に大きな祠のあるトチノキが見事でした。ハクウンボクの花びらがじゅうたんのよう

に散っていて美しい。視界が開け断崖に囲まれた小さな入り江が見えてきました。美しく穏やかな小幌海岸です。10時50分到着。(右写真) 岩屋洞窟には



円空上人が刻んだとされる仏像「岩屋観音」が奉られており、漁師の守り神として崇められています。現在あるのはレプリカです。海岸で食事したり、磯の香りを楽しみ、12時近くに出発。

下ってきた道とは別の小道を登り返し、日に上下合わせて8便しか停車しない、秘境駅「小幌」に12時15分に着きました。



ディーゼルカーの通過を待ち構える私たち 撮影・藤木俊三さん

JR東日本のディーゼルカーの電気・軌道総合試験車という非営業用車が通過するのに運よく遭遇することができました。鉄道ファンには羨ましがられるかもしれませんがね。

以前は漁師の家が一軒あったという文太郎浜で遊び、登山口13時50分。大人の遠足を終え高速で帰路に着きました。白石駅からJR野幌駅。そこから歩きで自宅には17時半でした。

海をのんびり眺めて、適度な運動にもなり、楽しい一日でした。

## 赤岳の高山植物は今が見頃です



コマクサ平のコマクサ群落



メアカンキンバイ



コケモモ



ミネズオウ



キバナシャクナゲ



イワブクロ



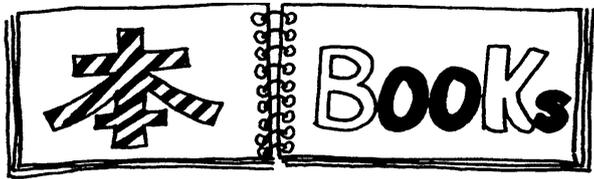
7月13日、4時起きして、野幌を5時に出発し友人と大雪山系の赤岳に登りました。

層雲峡、黒岳ロープウェイを通過して銀泉台ヒュッテに向かいました。長い林道で、銀泉台から市内に戻るバスとすれ違いました。7時ぐらいから登る人が多いようです。銀泉台は標高は1500mぐらい。8時少し過ぎに出発し、赤岳登山口は8時20分でした。

いきなり、きつい登りで体が慣れません。第一花園ではウコンウツギとチングルマがたくさん咲いていました。そこから歩きにくい雪渓をわたると第二花園です。曇り空で、山の姿は時々姿を現す程度です。コマクサ平に出ると一気に開けました。エゾツガザクラ、アオノツガザクラが咲き始めています。キバナシャクナゲの群落が素晴らしい。コマクサ、キバナシオガマ、イワブクロもたくさん咲いていました。ミネズオウのじゅうたんが可愛らしい。コケモモやヒメイツツジなど、一応書き留めませんが、名前の分からない花も多かったです。雨が降りそう

で、ここまでで、下山を決めました。帰り、ナキウサギに会えないかなあと声に耳を澄ましなが

ら歩きましたが、お目にかかれなかったのが残念でした。11時半、銀泉台登山口到着。今年初の高山植物パトロールを終えました。



## 平和的に生きる権利の重要性を説き行動した人



平和憲法とともに  
深瀬忠一の人と学問

稲正樹 中村睦男 水島朝穂 編  
新教出版社 2200円

本書は長く北海道大学で教鞭をとった憲法学者の深瀬忠一さんが亡くなって5年。ゆかりの人たち27人が深瀬さん

の生涯や理論をたどり、文章を寄せました。

「恵庭事件」を知った深瀬さんは、憲法の平和的生存権が侵されたと直感して、「自衛隊は違憲」として、主体的に裁判闘争に関わり、特別弁護人として法廷に立ち、平和的生存権の重要性を論じました。

深瀬さんは1927年、高知県出身。幼少の頃は生粋の軍国少年で、陸軍士官学校で敗戦を迎えた。旧来の価値観の崩壊後、すべてを学び直すことを決意し、一高・東大で学び、仏国の立憲主義と人権思想に関心を抱き、平和主義を掲げる新生日本国憲法に触れて憲法学を志しました。北海道大学法学部で長く教えました。

第1部は「憲法学者からみた深瀬憲法学」として、大学の研究者らが9条と深瀬さんの憲法理論などについて論考。編者の一人で、北大時代に最初の深瀬ゼミ生だった元北大総長中村睦男さんも深瀬さんの研究について寄稿しています

第2部は「憲法裁判と平和的生存権の拡大」として、恵庭事件裁判の闘いや憲法教育などを関係者が綴っています。

2017年にドキュメンタリー映画「憲法を武器として 恵庭事件 知られざる50年目の真実」を発表した苦小牧出身の映画監督稲塚秀孝さん(69)もコラムを書いています。是非観る機会があればと思います。

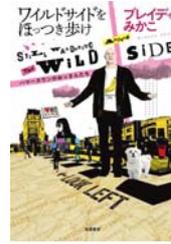
恵庭事件裁判の闘いについてつづった元被告の野崎健美さん(85)は、現地に何度も足を運び、野崎さんたちの話を詳細に聞いた深瀬さんの姿が忘れられない。「恵庭事件は深瀬先生なしには語れない。平和的に生きる権利の重要性を説き、理論だけでなく行動した方だった」と振り返っています。私は野崎さんの文章が強く印象に残りました。平和的生存権についてかなり深く勉強した姿に敬服しました。

私の長い友人である福原正和さん(医師)が、学生時代、恵庭・長沼事件の裁判の支援活動をしていました。その話を福原さんから聞いたとき、私が旭川にいたころ、親しくしていた女性が当事者である野崎さんの妹さんで、本人から裁判闘争のお話を聞いていたので、不思議な縁を感じました。二つの裁判の支援活動に奮闘した福原さんは「今の自分の生き方を支えている」と書いています。

第3部は「深瀬忠一の人と信仰・学問」。クリスチャンだった深瀬さんの人となりについて、次女ふみ子さんや、キリスト教関係者らがしのんでいます。

清末愛砂さんも「パレスチナと北海道で考える平和の福音」というコラムを書いています。

恵庭・長沼事件は、過去の問題ではなく、沖縄・辺野古問題とつながっています。この本をたくさんの方の協力で出版したいとお誘いを受け、私も資金協力した著書です。北大生協にもあります。是非購読していただきたいです。



## 中高年の哀感をユーモラスに描く

ワイルドサイドをほっつき歩け

ブレイディみかこ著  
筑摩書房 1485円

失業や離婚、新しい出会いなど、著者の身近にいるイギリスの労働者階級のおじさん(時におばさん)たちのエピソードを集めた社会派エッセイ集です。前作『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』では、自身の息子に焦点を当てエンパシーという言葉がキーワードでした。「エンパシーとは自分とは違う立場の人や、反対の考え方をすることでも、どんな心情なのか想像してみることも他人の靴を履いてみることの大切さが語られました。今回はブレイディさんがエンパシーを実践してみました。

このおじさんはどこの世代を指すのかといえば、ベビー・ブーマー世代、第二次世界大戦が終わった直後から1960年代前半までに生まれた人々を指します。現在は「ブregジットに賛成した反移民&保守主義者のマジョリティ」とみなされることが多いようです。ブレイディさんのお連れ合いの友人たちとの付き合いは長く、EU離脱だから良くないと片付けることはできません。サッチャー時代には圧政に屈せぬとストライキを行い、誇り高き労働者階級の若者たちであったことが伝わってきました。レイの家庭では、ブregジットをきっかけとして、離脱派のレイと、離脱反対派のレイチェルとの間に亀裂が入ります。レイは自動車修理工でしたが、早期退職して、レイチェルの3人の子どもの世話を引き受けています。

スティーブという本好きのおじさん(ただし、こわもて)は、通って公立図書館が緊縮財政で子ども遊戯室の一角に吸収されてしまっても、あきらめずに子どもたちが騒ぎまわ中、眉間に皺を寄せて読書を続けます。スティーブは「EU離脱か残留かの投票の時は、労働者階級はバカだの、無知だのさんざん言ったくせに、政府はさらに俺らの頭を悪くしようとしている」と怒ります。大人の本は迫いやられ、図書館のデリバリーサービスを利用し続ける姿に、子どもたちや母親から絶大な支持を受け、イースターエッグをプレゼントされる場面「私たちがおじいちゃん、スティーブへ。いつもありがとう」は映画のワンシーンのようです。

特に深刻なのは無料の医療制度であるNHS(国民保険サービス)です。緊縮財政のせいで規模が縮小され受診しようとしても1ヵ月も2ヵ月も待たされると。昔、イギリスが「揺りかごから墓場まで」と言われた福祉国家だった日は遠くになりました。

ブレイディさんのお連れ合いも、NHSを利用したくて何ヵ月も待たされたことも書かれていました。

市井に生きるおじさんたちの人生の悲哀や喜びを生き生きと描き出して感動しました。ケン・ローチ監督の「私はダニエル・ブレイク」を思い出しました。

### 数学的な視点で感染症を読み解く



コロナの時代の僕ら  
パオロ・ジョルダノーノ著  
飯田亮介訳

#### コロナの時代の僕ら

パオロ・ジョルダノーノ著 飯田亮介訳 早川書房 1430円

著者はイタリアの物理学者であり作家。

感染がどのようにひろがっていくかを具体的に記しています。ビリヤードの球がぶつかってふたつの球を動かす。するとふたつの球はそれぞれふたつの球を動かし、またたく間に動く球は増える。これこそが我々が直感的にとらえにくい「指数関数的」といわれる事態だと言います。著者は子供の頃に父から教わった交通事故に関する言葉によってそれをあらわす。「衝突の衝撃」は「車のスピードを二乗した比率で増える」というのだ。したがって日々発表される感染者数は単なる正比例で増えたり減ったりしない。突然に数が増える。ウイルスは直感を超えると言います。今、東京や大阪で、感染拡大が起きていることと同じだと思いました。

「僕は忘れたくない」というあとがきには、未来に向けての切なる祈りが込められています。幾つかを紹介します。「僕は忘れたくない、頼りなくて、支離滅裂で、センセーショナルで、感情的で、いい加減な情報が、今回の流行の初期にやたらと伝搬されていたことを。もしかすると、これこそ何よりも明らかな失敗と言えるかもしれない。それはけっして取るに足らぬ話ではない。感染症流行時は、明確な情報ほど重要な予防手段はないのだから」。「僕は忘れたくない。今回のパンデミックのそもそもの原因が秘密の軍事実験などではなく、自然と環境に対する人間の危うい接し方、森林破壊、僕らの軽率な消費活動にあることを」。印象的な言葉が詩のようで、ずっと心の中に入ってきました。

コロナが私たちの社会や生活を見つめ直すきっかけになればと思います。



### 慰安婦の尊厳を描く

草 日本軍『慰安婦』のリビング・ヒストリー

キム・ジェンドリ・グムスク著  
都築寿美枝・李吟京/訳  
ころから 3300円

漫画と文学を組み合わせた「グラフィックノベル作家」として活動する韓国のキム・ジェンドリ・グムスクさんの著書の日本語版です。

元慰安婦らが入所する韓国「ナムムの家」で暮らす李玉善(イ・オクソン)さん(92)の部屋を訪ねてグムスクさんがインタビューを重ね、オクソンさんの現在と、中国に連行されて慰安婦にされた15歳当時や、戦後も故郷に帰れず、2000年まで中国で暮らした苦労を描きました。

家が貧しくて、学校に行かせてもらえず、うどん屋の養女になったのに料亭で働かされたり。まだ希望があった頃は画面は明るいけれど、軍人に強姦された時の

表現は特に繊細です。

黒いコマのあとに、当時のことを語るオクソンさんの顔と手を何コマも並べました。また山や木々、草などオクソンさんが目にした自然の姿を通して、悲しさと痛みを表現しました。オクソンさんの人生が胸に迫りました。

オクソンさんの足跡を辿るために、グムスクさんは中国を訪ねました。そしてようやく、元慰安所を探し当てます。真っ黒に描いています。

著者は「風に飛ばされて、踏まれてもまた立ち上がる草。ひょっとするとあなたの足にわずかに触れてはにかみながら挨拶するかもしれない」と結んでいます。

オクソンさんは理不尽な人生を生きてきたけれど凛とした強さに感銘を受けました。

### 北大の「影」に光を当てた



#### 北海道大学ピースガイド

ビー・アンビシャス9条の会・北海道編さん 900円  
北大構内の生協書籍部で販売

本書は北海道大学のOB有志らでつくる市民団体「ビー・アンビシャス9条の会・北海道」(共同代表・梅津徹郎北海道文教大教授)が編纂。平和をキーワードに北大の歴史をひもとく冊子です。

前身の札幌農学校を含む創立期では「クラークの時代 北海道大学の原点」「古河講堂人骨放置事件 札幌農学校から帝国大学へ」など、戦中期では「北大と軍事研究」「治安維持法と学生・教職員への弾圧」など。

戦後期では「北大構内のアイヌ納骨堂」に加え「権利と自治を求めて」という章を立て、教職員組合運動や学生自治会運動、現在の「産学共同」についても紙幅を割いています。

日米開戦当日、北大生と米国人教師夫妻がスパイ容疑で特高警察に検挙されました。「宮澤・レーン冤罪事件」と呼ばれる北大の負の歴史ですが、事件を語り継ぐ大切さも訴えています。

「戦後の日本国憲法の成立のもと、新制大学として新たな歩みをはじめた北大では、文系学部の創設もあり、大学の自治や学問の自由を守り、さらに発展させるための運動に教職員・学生が共同して取り組んできました。そのような中、2004年に国立大学が法人化され、大学・学部の運営組織も研究体制も大きく変質してきています。人類の歴史には『光と影』の部分がありますが、その歴史記述に当たっては、一面的に部分だけを取り上げ、ことさら“美化”することは避けなければなりません。ましてや不都合な事実を隠ぺいしたり、修正することは許されません。客観的事実に基づいて記述することが大切であると思います。この冊子の発刊が平和と民主主義、大学の自治、学問の自由をあらためて考えていただく契機になることを願ってやみません」と述べています。

光もあります。もうひとつの学びの場となった「遠友夜学校」は50年にわたって続けられた事実にも心揺さぶられました。

正義と良心を問う

『コリーニ事件』

(ネタバレあり)

樋口 みな子

札幌映画サークル会報  
シネアスト  
2020年  
8月号掲載

ドイツで刑事裁判を扱う、現役弁護士フェルディナント・フォン・シーラッハが「これまで忘れられていた司法スキャンダルを白日の下にさらした」のは2011年のベストセラー長編小説。本作はそれをマルコ・クロイツパイントナー監督が映画化したものです。小説発刊後の2012年に調査委員会が作られました。

2001年、ベルリンのホテルのスイートルームで、大物実業家が殺害されます。新米弁護士のカスパー・ライネン(エリアス・ムバレク)は、被疑者のファブリツィオ・コリーニ(フランコ・ネロ)の国選弁護人に任命されてから、被害者が少年時代の恩人のハンス・マイヤーだと気付きます。ライネンは裁判に私情を持ち込まないことを決意し、被疑者に接見しますが、コリーニはなぜか黙秘を貫きます。調べるとある凄惨な事件と驚くべき真実、そしてドイツ史上最大の司法スキャンダルにたどり着きます。

イタリアからの移民として、ドイツで30年以上模範的な市民として暮らしてきた物静かなコリーニはなぜ殺人を犯したのか。人格者として知られたマイヤーとの間に何があったのか謎が深まります。

小説では、コリーニも高い教育を受けているエリートですが、監督は勤勉な移民労働者として描いています。そのため、社会的弱者であるコリーニが、いかに様々な軋轢の中で生きてきたかが想像できるし、難解な法律がコリーニをいかに苦しめたかが分かります。怒りを秘めて沈黙するコリーニを演じたフランコ・ネロの表情に引きこまれました。暗い地下から階段を上がってくる時のシーンの迫力が見事。

ライネンは裁判に行き詰まりますが、あるきっかけでコリーニの故郷イタリアのモンテカティーニに行けば、犯行の動機を掴めるのでは・・・そう考え、ふとしたことで知り合った経営学とイタリア語を学ぶピザ店員の女性ニーナを通訳として帯同させることとなります。

コリーニを知る地元のルケージの証言で、当時を再現。一気に緊張感が高まります。事件の背景に潜むナチ党員たちの非道さに、怒りがたぎります。証言に固唾を飲んで見守る法廷内の人々。ドイツ語が苦手なコリーニはやっと真実を知ってもらえたという穏やかな表情に変わっていました。

殺害されたマイヤーは「親衛隊大隊指導者」という重要な役職にありましたが、犯した罪は裁判にさえかけられなかったのです。被害者や遺族の無念さは想像を絶します。大量のナチ犯罪の免責は1968年の「ドレーアー法」と呼ばれる法律で行われました。この法の存在によってコリーニは、ナチによって殺害された遺族でありながら、加害者の反省の言葉も聞けなかったのです。量刑に意見を述べることもできず告発は却下されたのです。コリーニは、戦争の残虐さを担った人物と向き合う機会を奪われました。マイヤーはまったく罪に問われることはありませんでした。



(c) 2019 Constantin Film Produktion Gmb

映画『愛を読むひと』を、10年ぐらい前に観ました。この作品に登場するハンナは強制収容所の看守をしていた時の残虐行為で裁判にかけられ終身刑を言い渡されています。あまりにも対照的です。

戦争犯罪と向き合って、今の平和を築いたドイツに私は敬意を持っていました。監督は知られざる法の抜け穴を追及。ドイツが抱える戦前の負の遺産というデリケートな部分にメスを入れた作品となっていて、今でも、家族や恋人、大切な人を殺された人にとっては、何時までも戦争は終わりません。

朝鮮人強制連行や慰安婦問題、中国人虐殺等。日本は戦争犯罪に向き合ってきたでしょうか？憲法改正に前のめりな今の政権。法を作るのは社会であり、私たちの総意であってほしいです。

映画は問います。「自分の目で歴史を見よ。正義と良心を失ってはならない」と。恩師の弁護士と対峙して、加害責任を追及するライネンの真摯な姿勢と勇気に励まされました。

原作も是非読みたい。

基地問題を心で感じて

ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記

平良いずみ監督



(C) 沖縄テレビ放送

「ちむぐりさ」は、あなたが悲しいと、私も悲しい、を意味する沖縄の言葉です。

主人公の坂本菜の花さんは、石川県の

能登半島で生まれました。地元の小学校でいじめに遭い、15歳だった2015年、那覇市のフリースクール「珊瑚舎スコール」高等部に入学します。菜の花さんの目を通して沖縄を描いたテレビドキュメンタリーが再編成して映画になりました。

北陸中日新聞に月1回ペースで、3年間の高校生活をコラム「菜の花沖縄日記」として連載しました。沖縄料理店で働きながら、「珊瑚舎スコール」で高校の勉強だけでなく、三線の弾き方や、沖縄の言葉「ウチナグーチ」を習いました。併設された

夜間中学では戦争で学校に通えなかったおじい、おばあとの交流が生まれ、沖縄ではまだ戦争が続いていることを感じて1回目のコラムに「おじい、なぜ明るい？」と疑問を綴りました。お年寄りや菜の花さんを明るく迎えてくれて、楽しい時間を過ごすことができました。そうして沖縄の心を発見していくのです。その一方では、長く基地問題に反対し、米兵が絡む悲惨な事件が繰り返されるごとに抗議しても状況は一向に変わらないことにも気が付きます。菜の花さんが自分の眼で見て感じたことを大切に、自分にできることは何かを考え続けた物語です。

監督の平良いずみさんは、2016年6月、米軍による女性暴行殺人事件が起きた時、抗議の県民大会に生後6か月の子どもを連れて参加していました。でも沖縄の怒りや悲しみは、全国二ニュースになってもなかなか伝わらないと感じてきたそうです。菜の花さんのコラムを読んで、彼女の言葉の力を借りて作ろうとひらめいたとインタビューに答えています。

菜の花さんは辺野古新基地や県民大会、オスプレイや米軍ヘリコプターの墜落現場、米軍機から機体部品が落ちた幼稚園などにも足を運んで話を聞きました。自分と同じくらいの年の被害者に思いをはせ胸を痛めます。印象的個所があります。2017年10月、米軍の大型輸送ヘリが民間の牧草地に不時着して炎上した事件です。菜の花さんは地主の西銘さん夫婦に会いに行きました。西銘さんは「米兵の命は自分と同じ対等な命だから守ってあげたい」と答えたのです。こうした言葉を引き出したのは、彼女のまっすぐな目や、純真な気持ちが相手にも通じたからでしょう。

ウチナンチュー（沖縄の人たち）に受け入れられていくヤマトンチュー（本土の人たち）である自分とのつながりと隔たる壁は何なのか、菜の花さんが沖縄をとおして見つめる日本の姿が伝わってきて、彼女の豊かな感性に心が洗われました。

2018年、日本民間放送連盟賞の報道番組部門で優秀賞を受賞しました。

## 音楽が移民の高校生の人生を変えた

### カセットテープ・ダイアリーズ



### グリンダ・チャード 監督

1987年、イギリスの田舎町ルートン。音楽好きなパキスタン系の高校生ジャベドは、閉鎖的な町の中で受ける人種差別や、保守的な父から価値観を押し付けられることに鬱屈とした思いを抱えていました。しかしある日、ブルース・スプリングスティーンの音楽を知ったことをきっかけに、彼の人生は変わり始めます。流れてきたのは『ダンシング・イン・ザ・ダーク』という曲でした。

この映画の原題は“Blinded by the Light”、「光で目くらみ」です。ブルースの音楽は、まるでジャベドの魂の叫びのように思えました。歌詞に彼の心情を代弁させて、本人も詩や文章を書きます。イギリスの社会と戦いながら自分の居場所を模索し、道を開いていきます。音楽の力って素晴らしいですね。恋や友情、父との確執はあっても、ジャベドの文才を高く

買っている教師や友人らが応援します。

新自由主義が吹き荒れる当時の社会情勢も織り込まれ、移民は真っ先にリストラされ、ジャベドの父も失業します。極右の台頭など現在の問題につながっていると思いました。

## この世界を汚さないで

### 風の谷のナウシカ

### 宮崎駿監督



スタジオジブリ作品が映画館で上映されました。その一つが「風の谷のナウシカ」です。

1984年の作品ですが、「人類と自然との共生」が、いまだに色あせることなく現代にも通じるテーマで、初めて観たときの感動がよみがえりました。

高度な産業文明を破壊させた「火の七日間」と呼ばれる大戦争から1000年。人類は、巨大な虫や、毒の森・腐海に脅かされながら生きていた。辺境の小国「風の谷」の族長の娘、ナウシカは、人間同士の争いに巻き込まれていきます。

スクリーンの人々は森の毒から身を守るためにマスク姿だし、観客もマスクをしているし、そうした臨場感もたっぷり。

腐海の奥深くへと落ちて行く。そこで目を覚ましたナウシカはその光景を見て驚く。そこには澄んだ水が流れ、井戸の底と同じ砂が腐海の木の上から落ちてきていたのだ。腐海の木が枯れて砂になり、腐海の土地を綺麗にしている事を知る。そう、ナウシカが地下で実験していた、まさにそれと同じ事が腐海の木々によりされていたのだ。腐海の謎が解けた事に、心の底から喜ぶナウシカ。腐敗した自然を再生させる道を探る少女が描かれます。

メーヴェに乗って空を飛ぶナウシカの飛翔感。その圧倒的な描写力がもたらす映像はテレビでは味わえないものでした。

「大地を傷つけ奪いとり汚し焼き尽くすだけのもっとも醜い生き物。蟲達の方が私達よりずっと美しい」「きれいな水と土では腐海の木々も毒を出さないと分かったの。汚れているのは土なんです。この谷の土ですら汚れているんです。なぜ、誰が世界をこんなふうにしてしまったのでしょうか」。優しく強い正義感をもつナウシカの言葉にハッとさせられました。立ち止まって、どんな世界にすべきなのかをナウシカは問いかけます。

新型コロナウイルスという未知の感染症の拡大によって、今の地球で生きることが試されている私たちに、このままでいいのですか？と1000年後の世界から呼びかけられたような気がしました。



### 子ツバメの逡巡

### ルドベキア



前橋市のエスプレランチスト堀泰雄さんの絵手紙

## 北朝鮮の人々の暮らしを生き生きと描く

### 韓流ドラマ 『愛の不時着』



映画館に行けない日々が2ヶ月も続き、Netflixを申し込みました。クロームキャストを買いテレビで観ています。

はまったのが韓国映画「愛の不時着」。一話の長さも1時間半足らずで疲れず、次回への期待で16話を観終えました。

韓国の財閥の令嬢セリ(ソン・イェジン)がパラグライダーで北朝鮮に不時着し、北朝鮮のエリート将校ジョンヒョク(ヒョンビン)と恋に落ちる話。38度線が困難な愛を予測させながら、毎回、楽しみに観ました。

たった一人の兄を亡くして心を閉ざしてしまったジョンヒョクと、経済的には恵まれていても、義母との間には長い間しこりがあるセリ。それぞれに傷を持っていて、惹かれあうようになります。二人の恋を通して、韓国と北朝鮮が分かり合えるというのが良かったです。

ジョンヒョクの控えめな愛情が素敵です。自分の気持ちを押し付けない。女性を支配しない。料理も上手です。でも、セリが危険にさらされたら命がけで守り抜きます。軍人ではなくピアニストになりたかったジョンヒョクの人間の魅力も満載でした。北朝鮮の人々の暮らしが生き生きと描かれていました。取材は韓国で暮らす脱北者からしたそうです。

部下たちや北朝鮮に暮らす女性たちなど、脇役の個性や生き方もしっかり描かれ、ラブコメだけでなく、いろいろな側面が描かれ面白かったです。

「パラサイト 半地下の家族」といい、韓国映画の多様さに感心します。韓国は国の政策として、映画やドラマを大切な輸出産業として育ててきた成果だそうです。

### 猫の事務所でしか買えない本です

「猫の文学漫歩」 はた・さきこ著 1000円と「猫と映画」高山美香著 1300円 いずれも猫の事務所発行



猫の写真集は数あれど、猫を主役にした本は珍しいです。

「猫の文学漫歩」は夏目漱石『吾輩は猫である』の巻、異国の猫の巻、古典の巻、近代&現代の巻の4章からなり、私の知らない文学作品も含まれ、はたさきこさんの文学への造詣の深さに感銘を受けました。しかもそこには必ず猫がいるのです。はたさんはあとがきに「ネコは犬と違って大きさも姿形も殆ど一様で、本の中に出てくるネコもすぐ思い浮かべることができます。柏木の大賞も、マホメットも、伊予の国の大名も、同じあの重みを膝に感じ、あの柔らかい毛皮の手触りを楽しんだのだと思うと何かしら親しみを覚えます」と書いています。私家版「チャットやお呼びですか? ~猫といつまでも」を小学館から出版し、ロコミで2000部完売しました。是非、手に取っていただけたらと思います。

高山美香さんの「猫と映画」に登場する映画は「こねこ」「胡同の理髪師」「道」「トスカーナの休日」



「かもめ食堂」「17歳のカルテ」「ローマの休日」「アメリカ」「舟を編む」(左写真)など24作。イラストと的確な文章で映画の世界に誘ってくれます。私

の永久保存本になりそうです。申し込みは猫の事務所 高橋明子さんTEL/FAX0134-22-1354又は <a-clair@kbe.biglobe.ne.jp>にお願いします。



### 生と死を見晴るかす橋の上

花崎皋平著 自費出版 1000円

花崎皋平さんの『生きる場の哲学 共感からの出発』(1981年、岩波新書)は若き日の私の愛読書です。

花崎さんにお目にかかったのは、さっぽろ自由学校「遊」の会員になり、運営にささやかですが関わることになってからです。『あきらめから希望へ 生きる場からの運動』(高木仁三郎共著)も原発に反対する運動の中で読みました。

本書は11冊目の詩集です。とても89歳とは思えない若々しい感性に感銘を受けました。「詩のつり橋」が好きです。言葉が渡る風景が目に見えるような美しい詩です。

問い合わせはさっぽろ自由学校「遊」syu@sapporoyu.org 又はTEL011-252-6752にお願いします。

購読料と寄付をありがとうございます  
(敬称略) 5月28日~7月17日

220号以降の発行が厳しくなりWEB読者に寄付のお願いをしました。印刷通信読者も含むたくさんの方から寄付が届きました。

おかげで今年の発行はできる目途が立ちました。ありがとうございます。

菅 邦子 篠田江里子 高橋 儁 小池修生  
吉田理一 成田 明 鈴木ゆかり 黒尾和久  
岡崎幸彦 村井直美 押野記代子 沖山美喜子  
大橋 晃 飯島秀明 田島康弘 福島 清  
中川 充 泉 恵子 三露久男 柄倉幸一  
津田 孝 油谷良清 谷井利明 村田和代  
高橋明子 石川 旺 長澤恵子 堀 和恵  
塩川哲男 糟谷奈保子 佐藤雅彦 溝井留美  
植草勝久 仁木由紀江 安立尚雅 齊木登茂子  
福原正和 岡安聡子 高橋 健 神原照子  
堀 泰雄 伊藤 功 福田光子 匿名  
山田澄子 新井喜美子 金尾誠一 後藤言行  
松元保昭 藤田春美 守田恵美子 吉岡しげ美  
高橋 儁(切手) 七尾寿子(切手) 合計199,500円  
と切手は印刷代と送料に使わせていただきます。  
郵便振替「銀河通信」02740-7-56535 年間1500円です。

2021年からは年間6号分2000円に変更します。WEBに切り替える方はお知らせください。2年分として払い込んでいらっしゃる方はそのまま購読ください。